

子どもたちといっしょに

「タンゲくん」 片山 健
(福音館書店)

ある日、ひょっこり現れた片目のネコは、その姿から「タンゲくん」と名づけられます。きっと、時代劇の将下左膳に似ているからなのでしょう。

タンゲくんは、現れたその日から、まるで、そこが自分のいるべき場所のように「わたし」の上にのっかってきます。でも、いつもわたしにべったりではなく、時々ふらっとでかけ

ます。タンゲくんの行動はわたしには秘密。そんなとき、わたしは、タンゲくんのことを想像してみます。「よそのおんなのこにかわれているのかな」「とおいやまのなかで、おくさんや こどもたちとくらしているのかな」

最初から最後までタンゲくんの話でもちきりです。そして、最後にはオチまでついていきます。画もすばらしいです。お子さんと一緒にこの絵本をどうぞ味わってみてください。

第45回読書会

「思い出のマーニー」
(上・下)

ジョン・ロビンソン 作
松野正子 訳

(岩波書店)

思い出のマーニー



思い出のマーニー



日時・7月18日(日)
1:30~3:30

場所・ルーム2

(しろね図書館
しろね図書館友の会 共催)

みなさんの参加を
お待ちしております。

♪ アメアメ フレフレ カアサンが ジャノメデ オムカイ ウレシイナ ♪
ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン

7月の行事 バックバス

3 (土)	おはなし会 3:00~	大通地C 14:30~15:00 根岸農公 15:30~16:00	15 (木)	白面中 12:55~13:35 左瀬地C 14:00~14:40 左瀬小 15:00~15:45
4 (日)	第4回子どもの本の 講座 2回目		16 (金)	臼井中 12:55~13:35 臼井小 14:00~15:15
7 (水)	絵本のじかん 3:00~	根岸小 13:10~13:50 大通小 14:00~15:30	17 (土)	大通地C 14:30~15:00 根岸農公 15:30~16:00
8 (木)		白根北中 13:00~14:00 大瀬小 14:30~15:45	18 (日)	第45回 読書会 1:30~
9 (金)		白根小 13:00~13:50 小林小 14:30~15:30	21 (水)	絵本のじかん 3:00~
10 (土)	おはなし会 10:00~ おはなし会 3:00~	新飯田農公 14:30~15:00 戸石公 15:30~16:00	23 (金)	図書館員に なってみよう日
11 (日)	第4回子どもの本の 講座 3回目		24 (土)	おはなし会 10:00~ おはなし会 3:00~ 図書館員になってみよう日
14 (水)	第15回 あかちゃんのはじめてであう 絵本のじかん 3:00~	新飯田小 12:35~13:20 根岸根小 13:30~14:30	28 (木)	絵本のじかん 3:00~

しろね図書館だより

No. 50

発行 白根市立図書館

平成16年7月1日

ご利用ありがとうございます。7月1日・2日は館内のソファ清掃のため、休館させていただきました。すべてのご利用者に気持ちよく図書館を使っていたいただきたいと思いますので、テーブルやソファ、椅子はきれいにお使いください。

もうすぐ暑い夏がやってこようとしています。図書館で快適な Summer Vacation(夏休み)をお過ごしください。

6月の

来館者 ----- 15,902人

貸出冊数 ----- 13,265冊

予約件数 ----- 193件

ブックバス利用者 ----- 839人

ブックバス貸出冊数 ----- 2,116冊

リクエスト情報(しばらくお待ち下さい)

1位・世界の中心で、愛をさけぶ(25名)

2位・冬のソナタ 上・下(10名)

3位・蛇にピアス(8名)

4位・13歳のハローワーク(6名)

5位・幻夜(5名)

千と千尋の神隠し(5名) 他

子どもゆめ基金助成活動

ニ絵本作家やべみつのりさんの講演会・ワークショップ・原画展ニ

講演会 「こどもに伝えたいこと」-ものを創るということ-

日時・8月1日(日) 10:00~12:00

対象・おとな 入場無料

場所・白根学習館ラスパックホール

ワークショップ 「光と色のふしぎ遊び」

日時・8月1日(日) 1:30~4:30

場所・白根学習館ラスパックホール

対象・小学生からおとなまで

参加費・1人300円(材料費)

定員・50名(申し込み締切り7月15日)

原画展

期間 8月1日(日)~8月6日(金) 入場無料

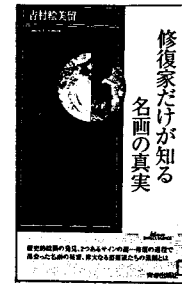
10:00~5:00(最終日は3:00に終了) 白根学習館ラスパックホール



にじのたまご

～図書館員がおすすめするこの一冊～

『修復家だけが知る名画の真実』 吉村絵美留／著 (青春出版社)



絵画・・・美術館などでよく目にしますが、何年も何十年も昔に描かれたものがどうして未だに鮮やかな色で自分たちの目の前にあるのか考えたことはありますか。たとえば、だれでも知っているであろうパブロ・ピカソ、彼が亡くなってからすでに30年が経過していますし、美術の教科書に必ずと言っていいほど登場するレオナルド・ダ・ヴィンチ作の「モナ・リザ」はいろいろな説がありますが、1500年初頭の作品だと言われています。1500年と言えば日本はまだ戦国時代、合戦に明け暮れていた頃です。そんな昔の作品が21世紀の今日でもその頃と変わらず目の前に存在するのは、修復家がいるから。彼らはその作品に隠れていて、そんな

職業があるのかとさえ思った人もあるかもしれませんが、2001年に公開された「冷静と情熱のあいだ」の主演を演じた竹野内豊さんの職業がこの修復家（修復師）でした。

いったい絵画を修復するとはどんなものなのか。それは、この本を読んでみれば少しは分かると思います。全く美術に関心がなくても面白いエピソードもあり、例えば、ピカソは偏頭痛持ちだった可能性があるとか、キャンパスの裏にもうひとつの別の絵があったとか、謎の二つのサインとか・・・著者は絵と語りながら作業すると言っています。絵は画家の自己表現であるので、それが可能なかもしれませんが、それによって驚くほどいろいろな情報を読み取っています。

この本を読んだ後に美術館に行くと、きっと今までと違った鑑賞ができるとおもいますよ。

(一般 724円) 司書 小林 友治

= お知らせ =

○図書館員になってみる日

日時 7月28日(水) 午前の部 9:00～11:30
午後の部 14:00～16:30

参加資格 小学校6年生、中学校1年生、中学校2年生

募集人数 各部9名まで(申し込み多数の場合は抽選)

申し込み しろね図書館 Tel 025-372-5510 *締め切り7月21日



○おもしろかった!!「サメのおちんちはふたつ」

6月13日のおもしろサメ講座は、212名の参加でした。

サメの標本にさわったり、しろね図書館友の会の方達の作ってくれたサメの歯のアーチが人気を呼びました。当日、参加されなかった方のために講演テープとスライドのCD-ROM(パソコン用)をお貸し致します。

当日の講師、北海道大学教授の仲谷一宏博士が、たくさんのお子さんやおとなの質問が出て大変喜んでおられました。アンケートで質問した人にも、ハガキで回答していただけるそうで、楽しみにお待ちください。

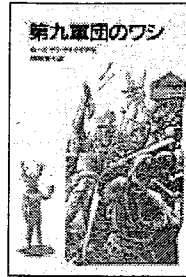
第44回読書会

平成16年6月20日(日)
午後1時半～3時半

参加者7名

「第九軍団のワシ」

ローズマリ・サトクリフ著
岩波書店



「第九軍団のワシ」はこんなお話し

紀元前1世紀頃、それはまだ古代のイギリスがローマ帝国に支配されていたころのお話し。戦争で受けた傷が元で若くして退役した軍人マーカスと、剣闘士奴隷の身からマーカスの従者となったエスカ。これはふたりの青年の冒険と、そして、絆の物語。

かつて、ローマ軍団の栄光の象徴であった軍団旗の鷲は、第九軍団とともに霧の中へ消えた。忽然と消息を絶った疑惑の第九軍団、その司令官こそ、他ならぬマーカスの父であった。

消えたワシを取り戻し、父の汚名をそぐため。マーカスとエスカのふたりは、危険と謎に満ちた北方氏族の勢力圏を目指し、防壁を越え旅立つのであった……。

4月に図書館にきてから、私にとっては初めての読書会。実は、この物語に出会うには、ちょっとしたきっかけがありました。さる集まりのとき、「サトクリフはイイ」と熱く語っていた方がいたので。この読書会で、その方のトークも聞いてみたかったのですが、ご都合がつかなかったようです。ちょっと残念。

でも、いろいろな感想が出て読書会は盛り上がりました。すこし紹介してみます。

■キャラクターなど

- ・ 闘技場の出会いが印象深い。自分の行動で周囲を変えたマーカスの行動力と意志の強さがい。
- ・ マーカスとエスカの絆みたいなものが感じられた。もしかしたらあの人が裏切者ではないかと、ハラハラしながら読んだ。
- ・ 奴隷制度が当たり前にあった時代の中で、対等の友情を築こうとしたマーカスのメンタリティは現代人に近いものがある。
- ・ 敵の氏族が、父の指輪を返すくだりがいい。人と人との結びつきというものを感ぜさせる。
- ・ コティアとの関係が面白い。マーカスは旅の間は彼女のことをこれっぽっちも思い出さなかったけれど、大人っぽくなったコティアに驚いてみたりとか。

■世界観など

- ・ 現代人が失ってしまった、人間の生き物としての野生的な感覚が存分に活かされていたように思う。
- ・ 生活感がよく描かれている。日常や、危険から逃げようとしたらといったディテールを、ありありと想像することができた。
- ・ 当時の人々の騎士道や、武士道にも似た精神が感じられた。
- ・ 壮大な展開に酔いしれた。丘陵や深谷など、身近では見ることのない雄大な自然描写が素晴らしい。

■そのほかにも……

- ・ 消えた軍団の謎など、神秘的な部分がい。
- ・ マーカスは傷を負って退役したという設定だが、体に不自由のある作者が自身を仮託している部分があるのではないかな。
- ・ 人生には冒険も必要だ。大変だということも、わくわくときどきするということでもあるのだ。

さて、次回の読書会の話題は、

ジョーン・ロビンソン著

「思い出さぬマリー」

7月18日(日) 午後1時半～3時半

本は、図書館カウンターで貸し出ししています。どなたでも気軽に参加できますので、どうぞおいでください。お待ちしております。

(清水 隆)